

瞳をめぐらし微笑めば百媚を生じる

(1)漢皇重色思傾国 ～ 漢の皇帝は色を好み傾国の美女を求めた

1 句目でいきなり美女を現すキーワードが出てきます。

そう、「傾国」です。

傾国傾城。

美女を示すこれ以上の表現があるのでしょうか。本当の美女は国や城をも傾けてしまうものなのです。

戸田恵梨香もエマ・ワトソンもソン・ヘギョもまだまだ。美女と呼ばれるためには大統領や終身独裁官をも惑わすマリリン・モンローやクレオパトラ級でなくてはならないのです。

傾国・傾城という言葉は、漢の武帝（前 157-前 87）に対し歌手の李延年が自分の妹の李夫人をすすめる際に詠った詩の中に「一顧傾人城 再顧傾人国」という句があり、それがもとになっています。

真の美人は、一度振り返れば都市を傾け、再度振り返ると国を傾ける――

ということはすなわち、傾城よりも傾国のほうがランクが上なのです。

そして楊貴妃は、実は長安の「城」、すなわち都市は破壊してしまったけれども、唐の国自体は、ぐらつきはさせましたが、完全には潰さなかった。その意味で、傾城だけでも傾国ではない。

中国の歴史における完全な傾国といえば、商（殷）を亡ぼした妲己と春秋時代の呉を亡ぼした「鬻（ひそみ）にならう」西施でしょう。周を亡ぼした「笑わない美女」褒姒も絶世の美女の例としてよく挙げ

られますが、周の国は遷都しその後も一応存続しますので、美女ランキングでは妲己・西施グループに一步遅れた楊貴妃クラスでしょうか。

では唐の国をぶっ壊した上に奪い取り自ら皇帝になってしまった則天武后（623-705）はどうなのでしょう……

それについてはのちのち論じていくことにします。

ちなみに第一句の冒頭で玄宗皇帝のことが「漢皇」とされているのは、長恨歌の作者である白居易自身が唐の人なので玄宗を名指しするのをはばかり、漢の皇帝になぞらえたということのようです。

- (2)御宇多年求不得 ～ 長年の間求めたけれども得られなかった
- (3)楊家有女初長成 ～ 楊家に娘がありこのたび成人した
- (4)養在深閨人未識 ～ 箱入り娘として育てられたので人々は面識がなかった
- (5)天生麗質難自棄 ～ 天性の美貌は捨て置けない
- (6)一朝選在君王側 ～ ある日選ばれ皇帝の側に上がった
- (7)回眸一笑百媚生 ～ 瞳をめぐらし微笑めば、あらゆるなまめかしさがうまれてくる

楊貴妃は笑った顔がなんとも美しかったようです。百通りもの艶かしさが生まれる笑顔。そんな微笑を、男なら一度は見てみたいものです。

ただここで、美女たるもの、笑わなくても美しいのではないか、という疑問が沸いてきます。先に挙げた中国歴史上の4人の美女のうち、褒姒は笑わなかったことで有名ですし、西施はひたいの眉と眉の間の部分、すなわち「ひそみ」にいつも皺を寄せていた姿が美しかったといえます。

褒姒の物語を少し復習してみましよう。

商（殷）末の頃、敵襲を知らせるのろしがなにかの手違いで上げられた。それを見て集まった諸侯たちの間抜けな姿を見て、それまで一度も笑ったことがなかった、幽王の妃の褒姒が笑った。その笑顔があまりに美しかったことから幽王は何度ものろしを上げさせる。このため実際に敵襲があった際、のろしを上げてても救援が集まらず、結果商は滅亡する。

つまり、褒姒は、笑わなくても美しかったけれども、笑えば男を狂わせるほど美しかったのです。西施もきつと、いつもは病弱そうだったからこそ、微笑むと超弩級に美しかったのではないのでしょうか。

(8)六宮粉黛無顔色 ～ 後宮の六つの御殿に仕える美女のおしろいやまゆずみをした姿も比べものにならない

(9)春寒賜浴華清池 ～ 初春、皇帝に（長安東郊外の）華清の温泉に連れて行っていただいた

この句にでてくる「華清宮」の跡を訪れたことがある人も多いのではないのでしょうか。華清宮は西安の東約 30 キロのところにある温泉です。

玄宗は避寒のために頻繁にここを訪れますが、その際、多数の女性に入浴させ、その姿をのぞき見たり、時にはいっしょに入ってハーレム状態を楽しんでいたに違いありません。玄宗のまわりには天下から集められた美女が何千人とそろっており、とはいえ何千人も一度に風呂には入れませんから、その中でもよりすぐりにすぐった数十人の美女と一緒に入浴。もちろん男は自分だけ。

ああ～ これこそ男の夢！

そうしたお楽しみの中で楊貴妃の美しい裸体に目がくぎ付けとなった。それが次の第 10 句です。

(10)温泉水滑洗凝脂 ～ 温泉の湯は滑らかで、豊かな肌にそそぎかかった

よく中国では痩せ型の女性が好まれてきたといえます。

「漢書・馬寥伝」には「楚王好細腰 宮中多餓死」とあります。春秋時代の楚の靈王は細い腰を好み、そのため宮中の女性に餓死者がでるほどだった。この故事をひき、杜牧の詩「遣懷」に「楚腰纖細掌中輕」と書かれたりします。杜牧は楚の女性のなんとも軽い細い腰にあこがれているわけです。

しかし第 10 句の「凝脂」からは楊貴妃が豊満な体系だったことがうかがえます。痩せ型のみが中国人にとっての美人であると決めつけてしまうのは性急にすぎるのです。日本の男性に巨乳好きの人が少なくないように、中国の男性も、痩せ型のみならず豊満な女性にも惹かれてきました。

ただ一方で、唐の時代はポッチャリ型のみが美人と考えられたかのように言われることも多いのですが、これも正しいとは言えません。

玄宗が楊貴妃にゾッコンになるまで最も愛していた梅妃はスラっとした体系だったようです。カルビはうまいけれども、カルビの合間にはキムチも食べたくなりますし、やはり最後は冷麺です。特に玄宗の頃のような豊かな時代には、食のバラエティが広がるように女性の好みについてのバラエティも広がったのでしょう。

(11)侍児扶起嬌無力 ～ 侍女が抱きかかえると、愛嬌のある様子でなよなよとした

豊満でありながら「嬌無力」だった、つまり弱々しかった。そんな

コントラストに玄宗皇帝は惹かれたのでしょう。

ということは、逆に、見た目が弱々しい女性の場合は芯がしっかりしているほうが魅力的といえるかもしれません。スレンダータイプであった梅妃は楊貴妃に対して「肥婢」（太った下女）と罵ったといいますが、そういう気の強さのある女性だったことがうかがえます。

「意外性」は美人をアップグレードする強力な武器です。

童顔なのにダイナミックボディ、めがねをとったら碧の大きなひとみ、才能あふれる美人なのに病弱、両親を早くになくしたピアニスト、合理的思考をするダンサー……

ぜひ皆さんも、過去にすてきだと思った女性のことを思い浮かべてください。必ずなんらかの意外性をもっていることと思います。

(12)始是新承恩沢時 ～ これが始めて皇帝の寵愛を賜った時である